平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	老年心理学 (Aging Psychology)			授業コード	E045951
担当教員名	山本　義史			科目ナンバリングコード	E21009
配当学年	2	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	受講心得に準じます。				
受講心得	遅刻、講義中の携帯電話の使用、おしゃべり、無断外室など、他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。				
教科書	なし。				
参考文献及び指定図書	「高齢者心理学」(2008)権藤恭之(編著)、朝倉書店。 他、授業中、適宜指示します。				
関連科目	心理学、発達心理学、青年心理学、臨床心理学				

授業の目的	本講義を通して、「こころの力」「社会人基礎力」「職業能力」「専門能力」の4つの力が結集した「人間力」を育成をベースに、社会貢献や地域の活性化・福祉に必要な実践的な知識・技術を習得します。特に、専門的力量の育成として人間行動を心理学の知見から得られた心理的加齢(Aging)の観点から考察し、自己の人生の分析・総合や社会の福祉に役立てることを目標とします。そして、それらをもとに自己の生き方をも考えます。
授業の概要	これまでに得られた心理学の知見をもとに、成長すること、年を重ねること、生きることを自分の人生に引き寄せて考えさせます。毎回の授業内容を整理したワークノートを配付して、それに記入しながら学習を進めます。また、授業終了時に、毎回(A41枚程度・15回)ショートレポートを書いて提出します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： 高齢者を考える 実際に、高齢者にかかわる心理学実験や心理テストを実施して自己分析し、それをもとに高齢者の心理について考えてみます。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「FAQと老人(高齢者)イメージ調査」に回答して提出(2h・2h)
第 2 週 ： 高齢者と加齢をめぐる心理学的考察の歴史と展望 加齢にともなう行動の変化や高齢者にかかわるこれまでに得られた心理学の成果や研究史について紹介し解説します。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「生物学的加齢(「からだ」の加齢)と心理的加齢(「こころ」の加齢)についてその違いや気づいた点について」レポート提出(2h・2h)
第 3 週 ： 生物学的加齢と心理的加齢 生物学的加齢と「こころ」の加齢の関係を中心として、心理的加齢を理解するためには、多様な要因を考慮することが重要であることを解説します。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「誕生や病気，またあなた自身が老化することや死ぬことに対して嫌悪感・不快感・恐怖感あるいは逆に幸福感などの感じについて」レポート提出(2h・2h)
第 4 週 ： 生物学的加齢と心理的加齢	

生物学的加齢と「こころ」の加齢の関係を中心として、心理的加齢を理解するためには、多様な要因を考慮することが重要であることを解説します。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「第3回と第4回の生物学的加齢と心理的加齢の授業を通して、加齢や老化について今まで持っていたイメージとの食い違いや気づいた点について」レポート提出（2h・2h）
第 5 週 ： 高齢者を取り巻く社会的環境 高齢者を取り巻く社会的環境について、高齢者人口、世帯構成、ライフスタイル（就労、グループ活動など）といった各側面から考えます。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「どのような超高齢社会を構築していくのが望ましいと思うかについて」レポート提出（2h・2h）
第 6 週 ： 高齢者を取り巻く社会的環境 高齢者を取り巻く社会的環境について、高齢者人口、世帯構成、ライフスタイル（就労、グループ活動など）といった各側面から考えます。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「理想とする高齢者像について、特に社会的環境あるいはプロダクティビティや創造性との関係について」レポート提出（2h・2h）
第 7 週 ： 注意と加齢 高齢者の注意機能について、どのような課題で加齢の影響がみられるかに関する研究を紹介し、解説します。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「高齢運転者に対する国民のイメージ回答や最近の高齢運転者自動車事故に関して現状をどのように感じているかについて」レポート提出（2h・2h）
第 8 週 ： 注意と加齢 高齢者の注意機能について、どのような課題で加齢の影響がみられるかに関する研究を紹介し、解説します。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「若齢者も含めて、高齢者もより安全で快適な生活を送ることができる社会を将来実現するためには、どうすればよいと考えるかについて」レポート提出（2h・2h）
第 9 週 ： 記憶と加齢 高齢者の記憶研究について、実験的なアプローチと日常的な出来事についての日常記憶の研究から解説します。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「高齢者の記憶についてどのように対応・サポートしようと思うかについて」レポート提出（2h・2h）
第10週： 知能、知恵、創造性と加齢	

知的機能に対する加齢の影響に関する研究で、高次で複雑な構造を持つ日常知能、知恵や創造性について解説します。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「高齢者の知能や知恵に関する授業を受けて、身近な高齢者（祖父母や親戚や本大学の教師など）を例に挙げて考えるところについて」レポート提出（2h・2h）
第11週： 情動・感情と幸福感と加齢 加齢とともに感情はどのように変化するのかを見ていき、加齢における情緒的適応はどのように測定するのか、そしてその情緒的適応を支える要因を解説します。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「身近な周りの高齢者やこれまでの高齢者体験から、学んだ高齢者の感情や幸福感があてはまると思うかについて」レポート提出（2h・2h）
第12週： 性格と加齢 性格について解説し、性格の加齢にともない変化する側面と、比較的安定している側面について紹介します。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「身近な高齢者を見て、性格はほとんど変化しないというのはあてまっていますか。あるいは、変化すると言われる老年的超越に達している高齢者はいますか。いずれかについて」レポート提出（2h・2h）
第13週： 高齢期の社会関係 高齢者の社会関係と豊かな社会関係を持つことが高齢者の心理的・身体的なウェル・ビーイングにどのような効果を与えるのかについて解説します。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「私的な考えでよいので、高齢者にとって豊かな社会関係をつくるアイデアについて」レポート提出（2h・2h）
第14週： 臨床：高齢期の心理的問題 特に、高齢期における重要な心理的問題について、認知症と介護を中心に各問題を解説します。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「高齢者の心理的問題について、周囲が気を付けておいたり、注意すべきことであったりすることに何か気づきましたか。気づいたことについて」レポート提出（2h・2h）
第15週： 臨床：心理的介入 高齢者に対する心理学的介入について、現状とその手法を臨床心理学的観点から解説します。	「高齢者心理学」の閲覧予習とワークノートの復習後「高齢者に対するキュア（治療）とケアの違いについて考えたところについて」レポート提出（2h・2h）
第16週： 期末試験 授業中に学んだ内容を特に知識や理解の観点から確認する試験です。	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	

	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	加齢に伴う人間行動や高齢者に関心をもち、自分の行動や身の回りの高齢者に引き寄せて考えるようになります。
【知識・理解】	高齢者との関係や自分の行く末・生き方が考えられるようになります。高齢者心理学の知識を得て、日常生活や福祉に応用してみるようになります。
【技能・表現・コミュニケーション】	日頃の高齢者との相互作用や社会生活に使えるようになることを目標とします。ただし、評価には含めません。
【思考・判断・創造】	学習した知識と理解をもとに思考・判断・創造性で、より善い社会生活が送れるようになることを目標とします。ただし、評価には含めません。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等(テスト)**	**レポート・作品等(提出物)**	**発表・その他(無形成果)**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**60点**		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**40点**			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	**評価の実施方法と達成水準の目安**
レポート・作品等(提出物)	授業後の毎回の与えられた課題に応じて、授業中に学んだ心理学的成果や一般論を考察し、自分や身の回りの高齢者に引き寄せて論じていれば、4点/1回(×15回=60点)となります。提出課題については, 授業前に全体的に概要をフィードバックします。評価方法は以下の通りです。 A(4点) 講義の内容をよく理解し、強い関心をもって自分の考えをしっかりと述べることができている。 B(3点) 講義の内容をよく理解し、振り返ることができている。 C(2点) 講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができている。 D(1点) 講義の内容を一部理解し、振り返ることができている。
発表・その他(無形成果)	